

N F O R M A T I O N

information 1

スイス
IMD

「ファミリービジネス プログラム」

“FAMILY BUSINESS PROGRAMS”
<http://www.imd.ch/research/centers/iodh/Family-Business-Programs.cfm/>

IMDはヨーロッパでもトップクラスに位置付けられるビジネススクール。約20年前から、ファミリー企業向けのプログラムを提供している。定型のプログラムが複数あるほか、個別のファミリーや企業の事情に合わせて、2～5日程度のプログラムも組んでもらえる。

教育

Education

“ファミリー企業の帝王学”に 特化した教育プログラム

ファミリー企業の
経営者やメンバーには、
MBAとは一味違う教育が必要。
欧米では多くの大学が
特別プログラムを用意している。
日本にも追隨する動きが出てきた。

米国 ハーバード大学 「事業の中の家族 世代から世代へ」

“Families in Business:
From Generation to Generation”
<http://www.exed.hbs.edu/programs/fib/>

米国のファミリー企業研究の第一人者、ジョン・A. デービス教授が主催する6日間のコース。家族間の対立などの実例をもとに議論を重ねる。親族4人以上での参加が推奨され、1人3万ドル（約350万円）の授業料は、5人目から6000ドル（約70万円）に割り引きされる。

日本 早稲田大学大学院 「ファミリービジネス 研究講座」

http://www.waseda.jp/wnfs/seminar/seminar2_01.html

早稲田大学日本橋キャンパスで、05年に始まった一般向けの講座。堺屋太一氏がファミリービジネスの意義を説くほか、新会社法や税制など実践的な講義もある。毎年秋から約3カ月間、土曜日の午後を使って3時間程度の講義を行う。昨年は全10回で授業料は8万4000円。

イタリア ボッコーニ大学 「ファミリービジネス 戦略科」

“ALBERTO FALCK CHAIR IN FAMILY
BUSINESS STRATEGY”
<http://www.uni-bocconi.it/>

ボッコーニ大学は、経済分野での評価が高いイタリアの名門大学で、ファミリービジネス研究の専門学科を持つ。この学科で授業を受けている学生の大半は、イタリアのファミリー企業経営者の子弟。MBAコースにも一部、ファミリービジネスに強い教授の授業がある。

フランス インシアード 「ファミリー企業の 課題」

“The Family Enterprise Challenge”
http://executive.education.insead.edu/family_enterprise/

インシアードはIMDと並ぶヨーロッパの名門ビジネススクール。ファミリー企業向けに4日間の教育プログラムがある。受講料は1人7500ユーロ（約120万円）だが、同じファミリーから複数人が参加すると、2人目は6500ユーロ（約100万円）などの割り引きがある。



ゴルフと乗馬が必修のほか、選択科目として茶道や陶芸もある。また、ヘリコプターやクルーザーの免許を取ると、教養科目の単位が取得できる（写真は名古屋学院大学の馬術部とゴルフ部のもの）

ゴルフと乗馬は必修 後継者教育に特化する大学が 日本にも登場

名古屋市 名古屋学院大学 商学部商学科 エグゼクティブ養成プログラム

<http://www.ngu.jp/faculty/commerce/program1.html>



岡田千尋商学部長

次世代の経営者を育成するため、ゴルフと乗馬が必修。そんな異色の教育プログラムが日本に登場した。名古屋学院大学商学部商学科のエグゼクティブ養成プログラムがそれだ。

昨年春に開設。学生は商学部の合格者から希望者を募り、06年入学の第1期生は2人。07年入学の第2期生は3～4人になる予定。全員がファミリー企業のオーナー家の子弟や親戚だ。

商学科の単位取得に加え、同大学大学院のMBAコースの修了を義務付けているので、卒業まで5～6年掛かる。1～3年生の間は毎年、海外留学する。昨年は、1年生2人が夏休み返上で約7週間、韓国に留学した。2年生では米国、3年生では中国が台湾を予定している。「試行錯誤でカリキュラムを改良している。今後は親世代の経営者との交流を強化したい」と岡田学部長は話す。

「強い ファミリー 企業」に 近づくための 実用情報

information 2

団体

Network

**ファミリー企業ならではの
悩みや課題を共有できる組織**

ほかのファミリー企業の人たちと
語り合える場がほしい。
ファミリー企業の強さや課題を
より深く学びたい。
そんなニーズを満たす組織が、
世界には数多くある。

FBN

**ファミリービジネスネットワーク
(The Family Business Network)**

スイス・ローザンヌ
<http://www.fbn-i.org/>

世界50カ国以上から約1700人以上が会員として参加する、世界的なファミリー企業の団体。入会の条件は、ファミリーが2世代目以降に入っていることなど。日本支部 (FBNジャパン) の連絡先は、03-5770-8814 (ASG マネジメント内)、fbn-tokyo@gtjapan.com。

エノキアン 協会

(The Henokiens Association)

フランス・パリ
http://www.henokiens.com/index_gb.php

老舗企業の団体。入会の条件は、創立200年以上で創立者の子孫が経営権を持ち、経営状態が良好であることなど。会員38社のうち日本企業は、月桂冠 (京都市、酒類の製造販売)、赤福 (三重県伊勢市、和菓子の製造販売)、法師 (石川県小松市、旅館)、岡谷鋼機 (名古屋市中、商社)。

ifera

**国際ファミリー企業研究学会
(The International Family
Enterprise Research Academy)**

ドイツ・ウィースバーデン
<http://www.ifera.org/index.php>

ファミリービジネスの研究者の団体。FBNとのつながりが深く、2004年までは両者の世界大会は共同で開催されていた。しかし、05年以降は別々に世界大会を開催するようになり、iferaの大会は研究者向けの色彩を強めている。昨年、最新の論文を集めた本を出版した (P87参照)。

FFI

**ファミリー企業協会
(The Family Firm Institute)**

米国・ボストン
<http://www.ffi.org/>

米国を基盤に国際的に活動するファミリービジネスの研究団体。メンバーには、ファミリー企業の経営や資産管理のコンサルティングなどを手掛ける専門家が多い。米国を中心に1400以上の個人や組織が加盟し、専門誌『ファミリービジネス・レビュー』を発行する。

information 3

「ファミリービジネス・アワード」の歴代受賞企業

受賞年	受賞企業	業種	本社
1996	レゴ	玩具製造	デンマーク・ビルン
1997	エルメス	皮革製品など	フランス・パリ
1998	ブイグ	香水・服飾・化粧品	スペイン・バルセロナ
1999	ヘンケル	化学製品	ドイツ・デュッセルドルフ
2000	ゼニア	紳士服	イタリア・ミラノ
2001	ムルガッパ	コングロマリット	インド・チェンナイ
2002	サミュエル・C・ジョンソン	生活用品など	米国・ウェスコンシン
2003	ボニエール	総合メディア	スウェーデン・ストックホルム
2004	バリラ	食品製造	イタリア・パルマ
2005	ボトランチン	コングロマリット	ブラジル・サンパウロ
2006	ロベス・グループ財団	慈善活動	フィリピン・バシグ
	ルイス・カルジャ財団	カタロニア文化の振興	スペイン・バルセロナ
	アイビー財団	自然環境保護	カナダ・トロント

表彰 Award

世界規模でファミリー企業を表彰する 「ファミリービジネス・アワード」

世界にはファミリー企業の表彰制度が多くある。その中でも特に権威があるのが、FBN総会で発表する「ファミリービジネス・アワード」だ。

歴代の受賞企業と審査基準は別表の通りだが、昨年は大きな変化があった。企業ではなく、非営利目的の財団が表彰されたのだ。例えばロベス・グループ財団は、フィリピンの有力財閥ロベス・グループが運営する慈善団体だ。このような場合、一昨年までなら「ロベス・グルー

プ」が表彰されていただろう。

昨年、表彰の対象を変えたのは、「ファミリー企業が慈善活動に取り組むことには、一族の絆を強める効果があるという認識が広がったことが背景にある」と、FBNジャパンの河田淳理事は話す。

「来年以降も財団が表彰されるかどうかは分からないが、06年の表彰結果には『社会貢献を重視しよう』というFBNのメッセージが込められている」(河田理事)。

「ファミリービジネス・アワード」の審査基準

- 1 ファミリーの所有、および経営が3世代以上継続している
- 2 財務内容が健全で、安定している
- 3 製造している製品分野で市場のリーダーであり、尊敬を受けている
- 4 効果的なガバナンスのシステムを確立、維持している
- 5 国際的に事業を展開している
- 6 伝統と革新を効果的に結合している
- 7 事業を営んでいる地域社会において社会貢献を行い、良き市民像を示している
- 8 責任あるオーナーシップを発揮している